

2. 床土、用土の消毒法

クロルピクリンくん蒸剤(クロールピクリン、ドロクロール、クロルピクリン錠剤)

① 使用法

1	床土を切り返し、固まりをほぐして軟らかにする。
2	床土を高さ 30 cm に積む。これより一度に高く積むと効果が落ちる。
3	30 平方ごとに 1 穴ずつ、深さ 10～15 cm に 3～5ml (80% 製剤は 3～6ml) の薬剤を手動土壌注入機で全面に注入する。処理の際できた穴は足でふさいでおく。錠剤の場合は 1 穴当たり 1 錠を内包装のまま表面に置く。
4	処理が終わったら、その上にさらに一層、高さ 30 cm に床土を積む。
5	3 と同じ要領で薬剤を注入(施用)する。
6	上記要領で 30 cm の高さずつ床土を順次積み上げ薬剤を処理する。
7	処理終了後、厚手のポリエチレンフィルムで全面を被覆し、10 日間おく。
8	被覆をとり、7～10 日間そのまま放置し、ガス抜きをする。

② 注意事項

- ・消毒の時期: 地温が 7℃ 以上であれば使用できるが、温度が高いほど効果が高く現れる。しかし、夏期高温時に実施する場合はガスの拡散が大きく、大気中に散逸しやすいのですみやかに被覆を行う。
- ・床土の土壌水分: 土壌水分が中程度(容水量の 50～60%) のときもっとも効果が高い。(床土を手でにぎり、はなしたときひび割れができる程度の湿りけのときがもっとも適している)。消毒を行う前に、灌水または乾燥させて適当な土壌水分になるよう心がける。
- ・薬害: 消毒前後 10 日以内に石灰や石灰チツソ等のアルカリ性肥料を施用すると生育障害を起こすことがあるので注意する。
- ・前作物の残根: クロルピクリンは、まだ腐っていない新鮮な組織内への浸透はあまり期待できない。このため、新鮮な根の内部に存在する病原菌やセンチュウ等には、ほとんど効果を示さないことが多いので、残根が十分に腐ってから消毒することが望ましい。
- ・住宅、畜舎周辺ではガスもれのないように十分に注意する。
- ・錠剤は、外袋開封後はその日に全量使用する。
- ・錠剤を内装している中袋は破らずに、そのまま施用する。
- ・錠剤の中袋は水溶性なので、水分が付着しないように十分に注意する。
- ・周辺へのガスの拡散には十分に注意する。被覆期間には余裕を持つようにし、無理なガス抜きは行わない。

③ 適用病害虫

「施設、本畑土壌の消毒法」の項参照

④ クロルピクリン剤注入後のくん蒸期間

土壌温度	くん蒸期間
25～30℃	約 10 日
15～25℃	10～15 日
10～15℃	15～20 日
7～10℃	20～30 日